

JAMCA ジャムカ

ニュース

The Japan Automobile Maintenance Colleges Association

No.30
2001年7月1日

発行 全国自動車整備専門学校協会
協会事務局 〒160-0015 東京都新宿区大塚町31
ヴィップ新宿御苑 ☎ 03-3356-7066
編集事務局 〒125-0002 東京都葛飾区西亀有3-28-3
☎ 03-3601-2535 FAX 03-3601-2988
ホームページアドレス <http://www.jamca.gr.jp/>



一級自動車整備士への思い

中央自動車技術専門学校理事長 廣川 萬里
全国自動車整備専門学校協会理事

6月に一級自動車整備士養成基準が発表されました。各学校においても将来を展望しながら準備をすすめておられることと思います。

接客経験の有無が大違い

一級整備士の受験資格が、二級取得者でかつ実務経験3年以上ということを考えますと、専門学校生との一番の違いは、接客経験の有無だと思われます。これを企業での実務実習で行ってもらうのも一手段だと思いますが、私は学校に接客ルームあるいはスペースを設置し、学生が実際に経験を積む場を準備したいと考えています。

お客様の車をリフトに載せて、各種テスターを使い車の状況とお客様の要望を聞き取り、それをその場でパソコンに入力し、出来上がったチェックシートでお互いに確認。できれば費用の見積りもお渡しできるようなシステムを考えています。

手元のパソコンに入力されたデータは、実習場の大型コンピューターに連動、整備に携わる学生がそれに従って作業し、車の受け渡しをする時もデータに沿って確認できるという具合です。これを実現するには一般の方のご協力を頂くか、学生同士でロールプレイングするか、いずれにしても力を入れたいところです。

一級の受験資格から推測しますと、国が求める一級資格者は、現在走って



いる全ての自動車に精通し、対応できる整備士だと思います。専門学校に養成が付与されるということは、ハイブリットカーはもとより燃料電池車など、これから主流になるであろう新機構搭載車について、若者が十分勉強し、その学問を通してグローバルな視点で、更なる車や車社会を考えられるようになって欲しいと望んでいるのだと考えます。

グローバルな視点求める

どの会員校でも、二級合格は既に当たり前のこととなっています。それに加えて各校が将来ビジョンを持ち、それをベースにそれぞれ特徴ある科の設置や授業展開をしておられるのですから、これから取り組む一級についても、ただ単に一級合格を果たさすための施設ではいけないと思います。

二級に無くて一級の教育内容に盛り込まれる「総合診断」「環境保全」「安全対策」を重点に授業が進められることになるでしょうが、この内容ならまさにグローバルな物の見方、考え

方、将来を見通す力がつくと思います。

二級課程の2年と併せ4年間の教育期間になるわけですから、単なる二級の上の整備士というのではなく、大きな人間を育成する場にシフトしてはと、心新たにしているところです。

そして最後に、これは小、中、高校の英語教育の改善を待たねばならないのかもしれませんが、世界中のほとんどの国で各国の車が縦横無尽に走っているという状況と、驚異的なインターネットの普及を併せ考えると、各国の整備士が技術交流や、それぞれの国の車事情を語り合う場が、インターネットを通じて生まれるのではないかと、生まれて欲しいと思います。

本校でも外国で整備士として働きたいという学生がおりますが、欧米先進国での就労は難しく、特に卒業直後というのは絶望的です。インターネットでの整備士同士の交流が、互いの職場訪問に発展し、やがて法を動かして、国境を越えて何処でも働ける状況、環境が生まれることを願い、夢見ています。

CONTENTS

2面	OPINION
3面	我が校自慢
4・5面	一級自動車整備士資格の概容
6面	協会トピックス
7面	活躍卒業生・地区通信
8面	私の教材活用・編集後記